

この寺を淨土教の聖域たらしめ、春秋二季の彼岸に於ける日想觀の流行と、扇面寫經の如き淨土教藝術品を遺さしめるに至つた經路を明にしてゐる。

後者は、石山本願寺創立以前に於ける大阪の交通路を明にしようとしたもので、熊野街道に關する考證と高津宮南門大道に關する考證との二部より成り、仁徳天皇の難波高津宮南門大道が聖武天皇の難波京の京中大路となり更に中世熊野街道として踏襲されたことを論じてゐる。而してその根據とするところ文獻や古地圖の記載にあることもとよりであるが更に著者の實地踏査の結果に俣つところ甚だ多く、熊野街道に於ける一里塚の配置状態と里制の問題の如き興味ある新事實に就て教へられる所少くない。(大阪湯川弘文社發行、各冊六十錢)(柴田)

○京都帝國大學 考古圖錄 續編  
文學部陳列館

昭和十年五月發行

會て本陳列館考古圖錄正編が世に送られて以來十數年を経過する間、今や圖錄初刊時の二千二百餘點は新收品を増加して總計三千八百點に上つた。本書はこの我國を

初め、支那、歐洲の遺物の新收品の主要なるもの、みを以て圖版六〇に編まれたものである。吾々は近き將來に於て、本書につゞく續々編の出版を待望する。(京都帝國大學文學部、非賣品)

○本山考古室要錄

末永 雅雄編

昭和十年二月發行

故本山松陰翁の集藏にかゝる本山考古室の目録として兼て又同翁の思出草として出版せられた本書は、嘗て出版せられた圖錄と解説を以て後半がなされ、前半は藏品の目録に用ひられて居り、各頁上段の空白を同頁の中の目録品名中目立つた遺物の圖示に費され、それはこの種の目録として最初の試である。本書の特徴は即ちこゝに存してゐる。

我々はこの書の如き親切な目録の出版の多く世に出づる事を願ふものである。(本山家藏版、非賣品)(以上中村)

○人文地理學通論

石橋 五郎 閱  
別技 篤彦 著

一般に通論的著作は多年學問の研究に従事した老大家